

おはなしトレイン

なつのワクワク号

学年ごとに おすすめの本を紹介し、小さなスイカのマーク  は読みやすいおはなし、
大きなスイカのマーク  はすこし長めのおはなしです。夏休みにぜひチャレンジしてください。

1・2年生
イチオシ!



小風さち/文
夏目ちさ/絵
福音館書店

『こぶたのピクルス』

ピクルスは元気なぶたの男の子。わすれ物てんけんもばっちり、
きょうげんきよくがっこうへむかいます。とちゅうで会ったいろいろな
に「わすれ物なし」じまんをするのですが…。
「ピクルスのわすれ物」のほか3つのおはなしが入っています。
ピクルスみたいなお友だちがいると、毎日がたのしくなりそうです。
読むとやさしい気持ちになれる1冊です。

3・4年生
イチオシ!



ルイス・スロポドキン/作
清水真砂子/訳
あすなる書房

『ピーターサンドさんのねこ』

ホテル島に住むピーターサンドさんは、毎年夏休みに島に遊びに
やってくる人たちに、ねかを貸してあげていました。もちろん心
からかわいがってくれると信じて。しかし、ある出来事から、みん
ながねかを愛していないことがわかり、ねかを貸さなくなってしま
います。動物を愛するとはどういうことなのか…。
ピーターサンドさんが教えてくれます。

5・6年生
イチオシ!



バーバラ・スレイ/作
山本まつよ/訳
岩波書店

『黒ねこの王子カーボネル』

きょうなつやすみ。10歳のロージーは、家の暮らしを助けるために、
そうじしごとをしようと思いつきます。仕事道具を買いに市場へ行っ
たロージーは、魔女のようなおばあさんから、ぼろぼろのほうきと、
大きな黒ねこを買わされてしまいました。
ところがこの大きな黒ねこは、ねこのくにの王子だったのです！ それ
からロージーの思いがけない冒険がはじまります。



1・2年生



エスター・アベリル/作
藤田圭雄/訳
文化出版局

『しょうぼうねこ』

のらねこのピクルズはいたずら好き。グッドカインドおくさんはピクルズをいいねこにするためにいっしょにすむことにしましたが、自由がなくなったピクルズはうちからにげだし、またもとの生活に。そんなある日、しょうぼうしさんに助けられたピクルズは「しょうぼうねこ」としてはたらく事になります。さて、いったいどんな日々がまっているのでしょうか。



クエンティン・ブレイク/作
千葉茂樹/訳
あかね書房

『みどりの船』

ぼくたちがおばさんの家の近くの庭で見つけたのは、木に囲まれたみどりの船でした。その庭にいたトリディーさんと「水夫長」から、舵の取りかたや望遠鏡の使い方を習い、ぼくたちはいよいよ船に乗り込みます。古い地図を見ながら世界中を探検する旅は、何年もの間ぼくたちの夏休みの楽しみとなり、いつまでも忘れられない思い出となっていました。



リンドグレーン/作
ヴィークランド/絵
偕成社

『やかましむらのこどもの日』

やかましむらの子どもたちは、2さいのシャスティーンがよろこぶことを一日中してあげる「こどもの日」を作ろうと思いつきます。子どもたちは、シャスティーンを馬にのせたり、ブランコにのせたりしますが、思うほどはよろこびません。そこで子どもたちはリーサおばさんに相談することに…。さあ、どんな「こどもの日」になったのでしょうか？



横塚真己人/写真
江口絵理/文
ほるぷ出版

『ゆらゆらチンアナゴ』

水族館の新アイドル、チンアナゴを見たことがありますか？砂の中からニョロっと顔を出しているあの魚です。姿形はまるでウミヘビのようですが、よく見るとちっちゃな胸ビレとなが〜い背びれをもっています。ですから、ほんの少しなら泳ぐことだってできるんですよ！ふしぎでかわいい、チンアナゴのひみつがたっぷりの写真絵本です。





3・4年生



ポール・フライシュマン/作
ケビン・ホークス/絵
あすなろ書房



『ウエズレーの国』

ウエズレーは町のほかの子とはちょっと違った子。心配するお母さんとお父さんは「きょうはなにをならったの？」と声をかけ「いまにきつとやくだつさ」とウエズレーを見守ります。そんなウエズレーは夏休みの宿題の自由研究で、とつぜんある事をひらめきます…。
読んだ後、表紙の裏も見てください。そこには何が書かれているのか、きつととっても気になるはずですよ。



松谷みよ子/作
講談社



『龍の子太郎』

のんきでなまけんぼうの太郎は、働き者のばあさまと山おくの村でくらしていました。ある日太郎は、ばあさまから「龍の子太郎」のなまえのいわれを聞き、遠い北の国の湖にいるというおっかさんをさがしに出かけます。太郎は、旅を続けていくうちに、少しずつ強く、かしく成長していき、村のみんなのためになることも考え出しました。
少しボリュームがありますが、ぜひチャレンジしてほしい1冊です。

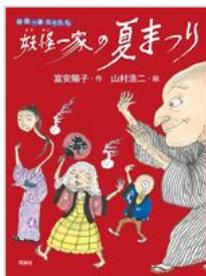


ケネス・グレーム/作
中川千尋/訳
徳間書店



『のんきなりゅう』

心のやさしいりゅうと友だちになった男の子がいました。りゅうはこの村に住みたいと考えますが、「りゅうは悪いもの」と決めつける村人はりゅうを退治するために名の高い騎士を村に呼びます。男の子は騎士に戦いをやめるよう説得し、何とか成功しますが、村人たちはりゅうと騎士との戦いを見物したいと期待を寄せていて…。村人たちを納得させるための作戦会議がはじまります。



富安陽子/作
理論社



『妖怪一家の夏まつり』

アダシノハラ だんちひがしまちさんちょうめーとう じんげん ま しょうかい
化野原団地東町三丁目B棟には人間たちに混じってこっそり妖怪
いっかが住んでいます。やまんばのおばあちゃんは団地の夏祭り実行
いんちよう おお ひろば けつ うご
委員長にえらばれて大はりきり。広場にある決して動かしてはいけな
い封印の石をやぐらをたてるために動かしてしまい…。
きんじょ た いちばんだいじ やくそく しょうかいいっか
「ご近所さんを食べないこと」が一番大事なお約束の「妖怪一家
つくも だん だん
九十九さん」シリーズ第2弾！





佐藤さとる/作
ゴブリン書房

『机の上の仙人-机上庵志異-』

机の上に突然あらわれた一軒の小さな家から、身の丈二寸（約6センチ）余りの仙人と小さな犬が出てきました。名前は机上庵方寸。夢ならこの辺りで覚めるところですが、机上庵は犬を残して消え、それ以来時々現れるでは、摩訶不思議な話をひとつずつ語るようになります。中国に伝わる奇譚集『聊斎志異』をもとに描いた短編集。不思議な余韻が味わえます。



E.L.カニグズバーグ/作
松永ふみ子/訳
岩波書店

『クローディアの秘密』

皆さんは、家出をしてみたいと思ったことはありませんか？ 11歳のクローディアは、綿密に計画を立てて家出を実行します。めざすはニューヨークのメトロポリタン美術館！ 連れの弟と、展示品であるアンティークのベッドで眠り、遠足の小学生にまぎれて食堂でランチもいただきます。そんな中、美術館で見た天使の像の真相を明らかにするために、クローディアたちは動き出します。



関野吉晴/著
ほるぷ出版

『海のうえに暮らす』

決まった職業には就かず、船の上に住み、海を移動して一生を送る。そんな生活を想像することができますか？ インドネシアやマレーシア、フィリピンに囲まれた海に「バジョ」という漂海民が住んでいます。バジョは世界でもまれにみる平和的な民族と呼ばれています。さてそれはなぜでしょう？ 美しい写真を手がかりに、バジョの暮らしに思いをさせてみましょう。



吉田篤弘/著
筑摩書房

『つむじ風食堂と僕』

12歳のリツは少し大人びた男の子。物事をゆっくり考えるタイプで、今は将来どんな仕事をするか悩んでいます。そんなリツはこの頃ひとりで隣の食堂へ通うようになりました。食堂を訪れる大人ひとりひとりに、リツは「どんな仕事をしているのですか」と尋ねます。肉屋、自転車屋、イラストレーター、コンビニの店員…。色んな大人の話聞き、リツは何を思い何を考えるのでしょうか。

